

# 「NTT 東日本札幌病院に通院中または通院されたことのある患者さんまたはご家族の方へ」（臨床研究に関する情報）

## 研究名称

ロボット支援手術における両手の連続運動を重要視したバイポーラ鉗子の使い方

## 2. 研究機関：NTT 東日本札幌病院

研究責任医師 道免 寛充

研究分担者 成田 翔

## 3. 目的と意義

呼吸器外科ロボット支援手術（以下 RATS）ではロボットが持つ器具（鉗子といいます）を間接的に術者が操作して手術を行います。鉗子には電気が通じるようになっており、通電の方法によってモノポーラ鉗子とバイポーラ鉗子の2種類があります。従来行われてきた開胸手術や胸腔鏡手術ではモノポーラ鉗子が使われてきましたが、近年急激に普及しつつある最先端の手術である RATS ではバイポーラ鉗子の有効性が見出されつつあり、両手いずれにもバイポーラ鉗子を持つ手法をダブルバイポーラ法と称し、当院でも採用しています。従来の開胸手術や胸腔鏡手術では両手にバイポーラ鉗子を用いることは一般的ではなく、ダブルバイポーラ法は RATS に特有の手法です。いかにバイポーラ鉗子を自在に操作することができるかが安全な手術を遂行する要因の一つになりますが、RATS は日本に登場してから数年しか経過しておらず、バイポーラ鉗子の自在な操作法について日本の呼吸器外科医に広く浸透した共通認識はまだ存在していません。当院ではバイポーラ鉗子の複数の操作法を使い分けることを重要と考え試行錯誤を繰り返しより良い手技の確立を目指してきました。当科のこうした経験を学会発表や論文報告を通じて周知することで日本の呼吸器外科全体のレベルアップの一助になることが今回の研究の目的および意義です。

## 4. 研究の方法

### (1) 研究対象者

2019年4月から2024年4月に当院で RATS を行った患者様連続 214 名です。

### (2) 研究方法

上記患者様 214 名を対象に電子カルテや手術動画で得られたデータを解析します。

### (3) 使用する情報

この研究に使用するの、カルテに記載されている情報の中から以下の項目を抽出し使用させていただきます。分析する際には氏名、生年月日などのあなたを特定できる情報は削除して使用します。また、あなたの情報が漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

研究対象者基本情報：年齢、性別、併存症、喫煙歴、肺疾患名、術式、手術成績（手術時間、出血量、胸腔ドレーン抜去日、退院日、術中術後合併症）等

#### (4) 研究期間

実施可能日～2025年4月20日まで

#### 5. 研究の合理的根拠

日本において未知であるバイポーラ鉗子の有効な使用法について呼吸器外科医に共通認識を有することで手術レベルの向上に寄与する。

#### 6. インフォームド・コンセントを受ける手続き

2019年4月から2024年4月までの期間にNTT東日本札幌病院外科において呼吸器外科手術を受けた患者さんの中で、この研究に診療情報を提供したくない方は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

#### 7. 経済的負担について

この研究を行うことで患者さんに費用などの負担は生じません。

#### 8. 研究結果の公表

2024年11月1日～4日に開催される日本胸部外科学会定期学術集会での発表および学会誌への掲載を予定します。

#### 9. 個人情報の取り扱い

お名前、住所等、患者さんを直接特定できる情報は収集しておりません。

また、本調査結果として公表する内容は、集計結果に基づくものであり、医療機関名、医師名、患者さんを特定する個人情報（生年月日、イニシャル等）は含みません上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

#### 【問い合わせ先】

担当医師：NTT東日本札幌病院 呼吸器外科 道免 寛充  
060-0061 北海道札幌市中央区南1条西15丁目  
電話 011-623-7520